

政友二候補相双進出で 氏家候補苦戦

石城の同情を唯一のたのみ

天下分け目の今次の総選挙もつて石城の比佐氏と譽をならべ今や目録の間に迫り、日々戦況で當選するは至難の事ではあるが、同派の佐藤候補も最初不安と稱されてきたが石城の投票にも確信を得たる如く、引續いて双葉、相馬兩郡下一帯に涉る猛運動を開始したるが、其結果が形勢を挽回の色あり、頗る優勢といはれてゐる。故に相馬二郡を地盤として立候補せる民政黨公認氏家清氏は目下腹背に政友候補の挾撃を受け、相馬兩郡の得票に動搖を來たし、石城の得票も同様未だ樂觀を許さぬ状態にあるので苦戦と稱されてゐる。相馬の民政黨員は同氏の當選は今後の地盤維持のためにも重大な關係あり又四十五年に涉る氏家氏の政事生活の最後を飾らしめるものとして、多年縣治に貢献したる感謝の意味からしても萬死を賭しても勝利を得ねばならぬと石城の應援投票を唯一の力として涙ぐましい奮戦を續けつゝあるのが、前回落選の同情も手傳ひ相當の投票に漕ぎつけるものと見られてゐる。

民政二候補 比佐昌平氏

磐城中学校の出身、早大政治科卒業、今年四十七年の働

り盛り、政治界への進出は明治四十四年頃、早大雄辯會出身で固めた丁未俱樂部は氏等の發起にかゝるもので、大正三年大隈後援會を組織して全國を股にかけて遊説に精進した事もある。

文字通りの清貧で、腕一本の著述家、毎度の總選挙に貧乏を看板にして有名だ。今度の立候補は四度目で、第一回は石城政友の御大白井傳之に僅少の差で敗戦したが、第二回は天下の製藥王星一氏と戦ひ、當時の石城憲政會

私の立場を明にす

石城郡平町字田町二八

今回の總選挙に際し私は從來の關係から見ますれば、比佐氏を應援するが當然であるのに、氏家清氏を應援して比佐氏の事務所では私に對し種々なる惡宣傳をしてゐるの事であり、私は雙葉郡木戸村の出生で、氏家清氏は同郷の先輩であり、昭和三年二月二十日施行の總選挙には不幸にして落選の浮目を見て居るので今回は何んぞかして氏家清氏を見事當選せしめて中央議政壇上を送りたいと考へました、特に從來の總選挙の

長漆畑氏の考案になる標語、「クヌリは星、政治は比佐」の偉効で、見事中原の鹿を射止めた、第三回は更に最高点で當選した幸福兒である。老母につかへて至孝、前途を洋々たる中堅政治家として中央に名高い。

氏家清氏

少壯二十歳にして政治に身を投じ、當時大隈條約改正反對の急先鋒となり明治二十三年から河野磐洲翁に従ひ終始一貫今日に至り、その間憲政會、民政黨の代議員、評議員、支部幹事長に推され、現に顧問である。昭和三年二月の總選挙に際し公認候補者として松本孫右衛門氏と戦ひ、利あらずして敗戦した、氏は常に公共事業に意を用ひ、相馬育英會を創設し、郷土の育英事業に力を盡し明治三十五年の東北方面の大凶作に際しては率先して宮城、岩手、福島の三縣に凶作救濟會を起し中央政府に向つて救濟方を請願し目的を達成した、その他山林開墾事業等地方のため盡力してゐることは何人も認めることである。

猪狩千勝

際は必ず私並に私友人等々に通知がありましたが、今回に限り如何なる譯合か比佐氏の事務所からは何等一片の通知もなかりませんでした、尤も志賀伊之松、漆畑元吉、野崎滿藏、山野邊義政の諸氏及び比佐氏の爲めなら自己の健康を害してまでも奮闘を續けて來て呉れた比佐氏の爲には又と得難き二十五年來の親友である辯護士安藤琢麿氏等に對しても何等の通知を爲さなかつたこの事故、私等に對し通知をしないのは或は當然だかも知れぬが、斯の如く是れま

では比佐氏の爲めに努力をして呉れた多數の有力者を除外したのは、之れ必竟比佐氏の當選は確實で若松美三、萩原義雄兩氏の力のみで充分であると思考された結果ならんと考へ、同郷の先輩であり又二十歳の時より政治に志し十數萬圓の家産を蕩盡して本縣々治に盡瘁された、人格高潔にして政治上に於ける手腕力量ある處の實際政治家氏家清氏を應援する事は黨人としての執るべき道であると考へたからであります。

釜屋商店

平町【電話九番】

イワキサロン

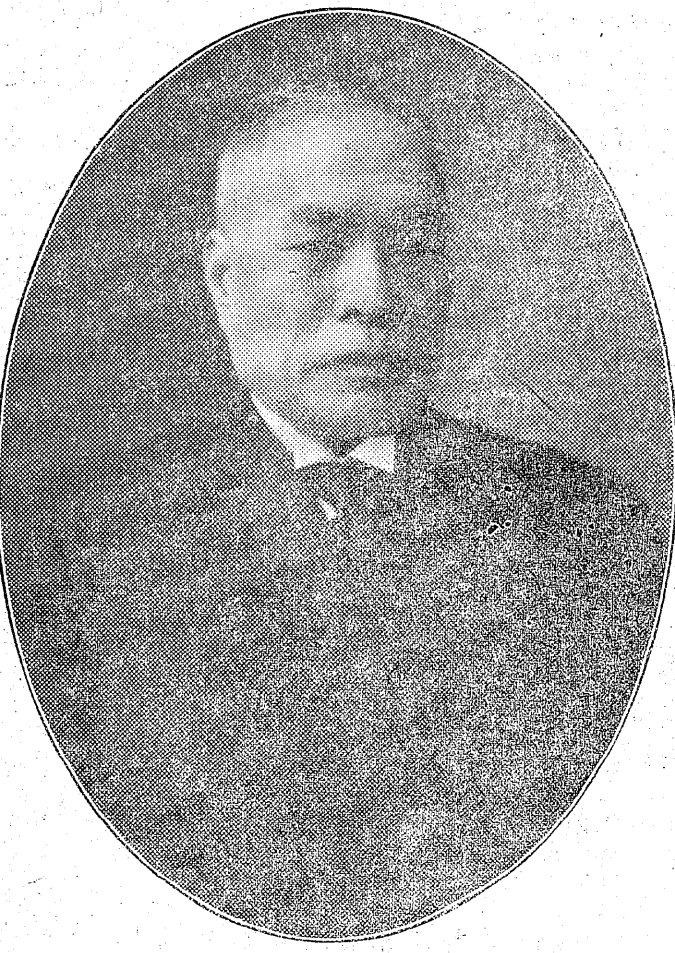
平町【電話三五二番】

會の爲め蠶食され雙葉郡の南部も亦政友會のため侵略されつゝありて全く氏家氏は腹背に敵を受け窮地に陥つてゐるのであるから、此際石城郡民政黨員は此の最も弱き同情すべき老政治家氏家清氏を應援し比佐氏と並ぶ當選を期すること、之れ眞の愛黨の精神だと思ひ、疑はないのであります。私が氏家氏應援の眞意を紙上を借りて披瀝いたす次第であります。

推薦廣告

今回の總選挙は國政運用上重大なる意義を有する秋石城部會に暗流を見る事は最も遺憾とする處です。先般發表されたる猪狩氏の聲明の通りに付何卒御賢察被下是非

氏家清氏を御援助相成度同氏



立憲民政黨公認

氏家清君

の政治的手腕及實力ある事は既に定評有之同氏の當選は本縣々治上は勿論憲政濟美の實を擧ぐるものと深く信じます。目下選挙の形勢は決して樂觀を許しません。何卒熱烈なる御援助を賜り度此段切に御願申上ます

昭和五年二月

推薦者 佐々木 秀松
推薦者 野崎 滿藏
推薦者 平町字古銀治町
推薦者 平町字田町十